

# 中期計画策定に向けて

## 中期計画はなぜ必要なのか？ ぱれっとが描く未来像とは？

昨年の総会で、1年かけて中期計画を作っていくというお話しをし、以来数回に渡って理事、職員、親、ボランティアが集まり、勉強会を開いてきました。その流れをお伝えしつつ、特集としてぱれっとの中長期計画を取り上げます。

### 1. 2004年中期5か年計画の振り返りから

2009年終了の中期5か年計画の振り返りから大きく評価された点は、組織力の強化が達成されたことでした。事務局長のポストを置いたこと、なによりたまり場ぱれっととスタッフの常勤化でした。中期計画の達成度評価を行ない、あらためてぱれっとの強み・弱みを分析しました。

●**内的強み**：自由な発想の下に、ぱれっとの理念を実践すべく継続的な活動展開は、常に努力を怠らないスタッフの強みによるもの。

●**外的強み**：福祉の分野に限らず海外も含めて多くの団体や企業とネットワークを広げることで、障がいのある人だけに偏らない活動の展開が社会で認められている。

●**内的弱み**：労働条件が整っていないためスタッフの心身の余裕の無さを生み出し、スタッフ間の連携、ひいては先を見通した組織的なマネジメントの甘さに影響している。

●**外的弱み**：外から見たぱれっとの安定性、確実性等のイメージと、ぱれっと内で葛藤している現実とがアンバランスである。

「外的弱み」が少し分かりにくいですが、外部から見られているぱれっとの印象とスタッフが持つ資金調達力や経営の不安定さといったもののギャップを課題点として挙げています。前回の中期計画の評価からこの5年間の変遷を見ると、経営の不

安定さが新たに内的弱みとなっています。

### 2. 新たなスタート

2012年1月29日、スタッフ勉強会で行なったぱれっと理念の確認作業、障がいのある人たちの「あたり前な暮らし方」のあたり前とはどのようなものか、実際にあたり前な社会ができていくのか、「働く」「暮らす」「余暇」の場面において、彼らに選択肢が与えられていることがあたり前で、ぱれっとはこの30年間障がいのある人たちが暮らしやすい世の中にしようと活動してきました。

今回の中期計画策定に向けて大事なところは、スタッフによって作り上げるのではなく、ぱれっとに関わる理事やボランティア・親・スタッフの人たち(支援者)が参加することでした。

2012年3月10日、支援者との勉強会が新たにスタートしました。中期計画の柱に「組織変革」と「本人主体」を掲げ、策定に向けた作業の中、参加する全ての人々が自覚と役割意識(帰属意識)が持てるよう意図とした勉強会でした。

### 3. 支援者どうしの関係性

2012年9月7日、中期計画策定に向けての下準備と題して、「障がいのある人たちを取り巻く社会状況はどうあるのが理想か、ぱれっとの活動を通し、一人ひとりが

どう関わっていくのか」、ぱれっとへ関わるそれぞれの立場の違いから、事例研究を通しながらぱれっとの事業活動の検証を行ないました。障がいのある方の事例をぱれっとの事業にあてはめながら支援者どうしが意見交換を行なうことで、それぞれの問題意識やかかわり方の背景が見え、中期計画策定に同じ方向を向いていかれる土台ができてきました。

2013年2月23日、「あなたはどんなぱれっとにしていきたいですか?」というテーマで、更に支援者との勉強会を開きました。ぱれっとの活動を通し、「それぞれの立場で目指しているものは何か」の確認作業。それぞれの違った立場から出てくる意見から接点を見出し、一丸となってこれから目指すものは何かを考え、最終的には、それぞれの立場から出た意見を中期計画に反映させる作業を行ない、計画の具体化に向けての勉強会を設定しました。

以下の3つを勉強会のねらいとしました。

- 色々な人たちと協働していくという一体感を持つ
- まずは支援者側が変わらなければならないという気づき
- 立場の違う集団が連携することで、障がいのある人たちの可能性を広げる

残念ながら、話し合いの方向性が抽象的であったため、2013年度総会に向けての中期計画の文章化までは間に合いませんでした。しかし、長年恵比寿に住まわれている理事の方から、「30年間地域との融合を目指して活動してきているが、ぱれっとは果たして地域に根付いているのか」という疑問の声が出されました。ぱれっとは地元知られているか、また地域と連携できた事業展開ができてきているのか、改めて検証し

直す必要性が出てきました。

#### 4. スタッフ勉強会から見えてきたもの

ぱれっとスタッフが自分たちの仕事を通してぱれっと全体で取り組む課題は何かを確認する作業を行ないました。「ミッションステイトメント・自分が捉えるぱれっとの事業活動・課題とは」

2013年4月におかし屋ぱれっとが総合支援法下就労継続支援B型に移行し、第2工房(現:工房ぱれっと)の新規開設、利用者増員と作業スペースの拡大に伴った家賃の増加、ぱれっとの経済的負担は以前にも増して大きくのし掛かってきています。渋谷区から一部家賃補助はありますが、それでもかなりの自己負担を強いられる現状、各セクションの中期目標を確認する中、法人全体として取り組む必要性が認識されたのが「移転」でした。夢のある中期計画は、この家賃負担を解消するだけが目的なのか、事務局会議を通して、議論を重ねていきました。

2013年10月26日、理事長・事務局長・ホーム施設長3者でトークセッションを行ないました。ぱれっとの財政基盤の危機的状況、おかし屋ぱれっと通所員の雇用拡大、多様なニーズ変化に対応したグループホームの住まい方の検討、たまり場ぱれっとの新たなニーズ等、地域との連携を意識した拠点づくりを主軸に、勉強会は最終段階を迎えました。

#### 5. 夢のある拠点づくりに向けて

ぱれっとの新たな拠点づくりに向けて、支援者とのビジョンの共有を図ることが勉強会での最終確認作業となりました。グループワークを通してながらビジョンの共有作業は、かかわる全ての人のモチベーシ

ョンが高まります。ビジョンの文章化を共に行なうことで、資金調達に向けて、支援者が一人ひとり自分の言葉で新たな拠点づくりの意義・目的が語られます。ぱれっとが地域に新たに一步を踏み出そうとした時、地域に根差そうとしている我々がこの恵比寿地域にどういった変化・変革をもたらすのか、また障がいのある人たちが中心となって世の中がどう変わっていくのか、具体的なビジョンの文章化がようやく完成しました。

**人間関係が希薄になりつつある地域  
の中で、誰もがつながり、新しい生  
き方を生み出せる拠点づくり**

\* 誰もが：障がいのあるなしに関わらず、高齢者や外国人も含めた地域の人々。

\* 新しい生き方：多様な人とのつながりの中から自分らしい生き方と選択肢の創造。

\* 拠点づくり：地域社会とつながれる場・雇用拡大や職域開発・多様化するニーズに対応できる暮らしの場づくり

この中期計画は、今年5月の総会の場で承認を受けます。次号では、今後の具体的なスケジュールについて、新たな拠点づくりに向けた動きも含め報告いたします。

これまでのぱれっとの勉強会に参加された支援者の中から、スタッフと父母からそれぞれの想いを語っていただきました。今回は、理事・ボランティアからの想いを語っていただきます。

(認定 NPO 法人ぱれっと理事長 相馬宏昭)

\*\*\*\*\*

新しい拠点作りを考える上で勉強会に参加した方々の共通の思いが、「気軽に集

える場所」の必要性だったと思います。パソコン・携帯・スマートフォンと文明は進歩しましたが、反面人と人の繋がりが希薄になって自己中心的な人間が増えてきた気がします。新しい拠点が地域の中での集いの場になればと思いました。1億以上のお金がかかる大仕事なので、一致団結、気を引き締めていかなければと思いました。また今後のことを考えると積立金のようなものも必要になるのではと感じました。(えびす・ぱれっとホーム職員 廣橋 潤)

各グループに様々な立場の方がいたので、それぞれの立場から意見を出し合い話し合えたことは良かったです。

「だれもがつながることで新しい生き方が生みだせる拠点作り」に向けて、立場によって考えている事は違うけれど、机上の話だけではなく現実に今できることから始めるのが重要であり、尚難しい資金集めはみんなで力を合わせていくしかないと考えます。

娘を見ていて思うのは、2年前引越して来て誰も知り合いはいなかったのに、いつの間にか多くの住人と顔見知りになって、挨拶を交わすようになっていました。毎朝仕事に行く時「おはようございます」と声掛けをしているうち、相手の方も声を掛けてくれる様になり、最近ではもう何年も前からの知り合いの様に、ごく自然に話をしています。こちらから挨拶することで、娘の存在を認めてもらい和が出来て行くのでしょうか！誰にも好かれる障がい者になって欲しいと思っています。

ぱれっと(障がい者)を知ってもらおう事で 地域とのつながり、発信、生きいきとした生活(活躍)が出来ると思います。(おかし屋ぱれっと通所員 父母 吉井民子)